

平成 23 年度第 1 回「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」

日 時：平成 23 年 5 月 10 日（火）

場 所：三重県総合文化センター

三重県文化会館大会議室

出席委員（敬称略）

会 長	上野 達彦	放送大学三重学習センター所長
	加藤 元治	日本放送協会津放送局副局長
	赤塚 恵子	鈴鹿国際大学国際人間科学部准教授
	宮西 マリア	ポルトガル語通訳者
	作本 真寿美	三重県 P T A 連合会副会長
	南部 美智代	N P O 法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿理事長
	後藤 京子	三重県子ども会連合会
	渡部 邦夫	社団法人三重県防犯協会連合会専務理事
	松吉 善弘	N P O 法人三重県防犯設備協会理事長
代 理	中野 和代	三重県市町教育長会監事
	岡田 恵子	三重県国公立幼稚園長会理事
	須藤 敏	三重県小中学校校長会
代 理	青木 薫	三重県市長会（鈴鹿市生活安全部防災安全課長）
代 理	和田 欣子	三重県教育委員会事務局生徒指導・健康教育室長
	久保 博嗣	三重県警察本部生活安全部長
	北岡 寛之	三重県生活・文化部長

司会 廣田

時間になりましたので、始めさせていただきますと思います。ただ今から平成 23 年度第 1 回「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」を開催します。委員の皆様方には大変お忙し中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、本日司会進行を務めさせていただきます、生活・文化部の廣田でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。なお、本日は広報活動用ペーパークラフト制作者に対する感謝状の授与ということで、ご協力を賜りました加藤様にお越しをいただいております。ペーパークラフトは前に置いてございます。また、私どもとご一緒に同趣旨の感謝状をお渡ししていただきます、日本赤十字社三重県支部の浦中事務局長をはじめ関係者の皆様方にもご出席いただいております。後ほど、表彰式ではよろしく願いいたします。それでは、はじめに北岡生活・文化部長からご挨拶を申し上げます。

北岡委員

生活・文化部長の北岡でございます。この4月に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいいたします。委員の皆様方には本日は何かとご多忙のところ、また、平素より県政各般にわたりまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、まずお礼申し上げたいと思います。また、先程もご紹介がありましたけれども、本日は安全で安心なまちづくりの広報活動の一環として防犯パトロール車、青パト車などのペーパークラフトの制作をいただきました加藤様ご夫妻にもお越しいただいております。加藤様ご多用のところ、お越しいただきましてありがとうございます。

さて、最近の犯罪情勢につきましては、後ほど警察本部の方からご説明いただきたいと思いますけれども、少し触れさせていただきますと、県内の刑法犯認知件数は平成14年に戦後最多の4万7,600件を記録しまして、その後年々減少してきておりましたが、一昨年平成21年にはまた増加をいたしました。幸い昨年は関係機関のご努力や諸対策の推進などにより、2万3,400件ということで、前年比で2,100件ほどの減少しております。しかしながら3月に東日本大震災が発生しまして、経済の先行きがまだまだ不透明な状況の中、治安情勢が悪化するのではないかといった声も聞かれる等、決して油断できない状況であると考えております。県といたしましては、昨年度犯罪の発生抑止のための取組としまして、街頭犯罪被害の防止や、防犯チェックシートの普及などの広報啓発と共に、犯罪防止に配慮した住宅の普及に資する人材育成事業を実施いたしました。本年も引き続き「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり条例」に基づきまして「犯罪のないまちづくりのためのリーダー養成事業」や、講演会等のフォーラムに取り組んでいきたいと考えております。安全で安心な地域社会の実現のために、さまざまな施策を組み合わせながら、自らの安全は自らで守るという気運を高め、県や警察はもとより関係機関、団体、事業者などが連携して地域の絆を作っていくことが何よりも大切だと考えております。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいいたします。最後になりますが、本日の推進会議には、私を含めまして新たに委員にご就任いただきました皆様に多数ご出席いただいております。どうぞ委員の皆様には安全で安心なまちづくりに向け活発な意見交換をしていただきまして、本日の会議が実りあるものになりますようお願いいたします。開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいいたします。

司会 廣田

ありがとうございました。それではこのたび新たに就任いただきました皆様方に簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。それでは久保委員からお願いいたします。

久保委員

警察本部の久保です。よろしくお願いいいたします。3月14日付けで、生活安全部長に着任しました。よろしくお願いいいたします。

白鳥委員代理 和田室長

三重県教育委員会の学校教育分野総括室長白鳥綱重、この4月1日から着任させていただきました。本日私、代理出席ということで生徒指導・健康教育室の和田が出席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

寺田委員代理 青木課長

本来でありましたら鈴鹿市生活安全部長の寺田が出席させていただくところでございます。本日も、本日所用のため私代理で出席させていただきます。防災安全課長の青木と申します。よろしくお願いいたします。

須藤委員

津市の西郊中学校の須藤と申します。よろしくお願いいたします。

岡田委員

三重県国公立幼稚園協会理事をさせていただきます。白塚幼稚園長の岡田です。よろしくお願いいたします。

作本委員

P T A 連合会の作本と申します。よろしくお願いいたします。

小林委員代理 中野監事

県の市町教育長会の小林会長が所用で出席できませんので、津市の教育長の中野でございます。代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

司会 廣田

それでは推進会議の会長であります上野会長からご挨拶をいただきたいと思います。

上野会長

みなさんこんにちは。この推進会議の会長をさせていただきます上野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。先ほどお話がございましたように、平成16年に、このまちづくりの条例ができました。本推進会議は、その条例を受け、いかに県民に知らせ、一緒に犯罪のない安全で安心な三重のまちづくりを行っていくかということ、推進していくための会議として設立いたしました。これが平成17年でございます。地道な活動としてパトロール隊を作って、パトロール隊でさまざまなまちづくりを、地域作りをやっていこうということで、現在では500を超える数の団体ができあがっております。そういう中でこの推進会議の果たす役割も、いろんな状況を勘案しながら進めてまいります。

た。この会議をいかに推進していくかが、会議の課題ということになるかと思えます。これからも皆様方の知恵を拝借いたしまして進めてまいりたいと思えます。3.11の災害が連日NHKをはじめ、各社がこぞって画像を流しておりますが、私の友人の仙台在住の人からは戦場だというような悲痛な声が寄せられています。その中で遠く離れた地域の中でも安全で安心な取組をどのように考えていくか、何をもって安全安心と考えるかというようなことを皆様と一緒に議論できたらいいなと思っております。4時までという短い時間ではございますけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。

司会 廣田

ありがとうございました。西出委員は今日ご欠席と言うことで事務局の方でお伺いしておりますのでご了承お願ひいたします。それでは次に感謝状の贈呈へと移らせていただきます。

本日この席へ奥様とご出席をいただきました加藤裕康様のご紹介をさせていただきます。加藤様は昭和55年に名古屋市消防官として第一線でご活躍後、昨年退官され現在は日本年金機構の国民年金の仕事に携わっておられます。ペーパークラフト制作を始められましたのは名古屋市消防局に在職中、個人で消防車のペーパークラフトを作られたことがきっかけとお聞きしております。本県では防犯広報等に使用するパトカーや日本赤十字社三重県支部の広報等に使用する特殊災害救護車両のペーパークラフト制作にボランティアとして献身的なご協力をいただきました。加藤様が制作されましたペーパークラフトは各種の広報活動で大変な人気でございまして、子どもから大人まで幅広い年代の方々に喜んでいただいております。それでは加藤様どうぞ前の方へ。それでは三重県知事と当推進会議会長の連名によります感謝状、並びに日本赤十字社三重県支部長によります感謝状の贈呈をさせていただきます。

上野会長

「感謝状 加藤裕康様 あなたは本県が進める安全で安心なまちづくり広報に使用するペーパークラフトの制作にご尽力され安全な暮らしの確保と安心できる生活環境づくりに多大な貢献をされました。ここに深く感謝の意を表します。平成23年5月10日 三重県知事 鈴木英敬、犯罪のない安全で安心なまちづくり推進会議会長 上野達彦」ありがとうございました。

司会 廣田

それでは日本赤十字社三重県支部からの感謝状でございます。

浦中局長

「感謝状 加藤裕康様 あなたは日本赤十字社三重県支部の活動に賛同し広報用ペーパー

クラフトの作成に尽力され赤十字事業の進展に多大な貢献をされました。そのご功労に心から感謝の意を表します。平成23年5月10日 日本赤十字社三重県支部支部長 鈴木英敬」どうもありがとうございました。

司会 廣田

それでは恐れ入りますが上野会長と浦中事務局長から一言ずつお礼の言葉をお願いいたします。

上野会長

この度は大変ありがとうございました。ペーパークラフトというと、紙で非常に軽いものですが、しかしここに魂を入れることで、このペーパークラフトのもつ意味が非常に大きくなる。私に孫が1人いるんですけども、ハサミとノリで一生懸命に作る、その姿に感動し、それを見て、これは素晴らしいなと思いました。今回は、本当にありがとうございました。これからもお元気で活躍ください。

浦中局長

一言お礼申し上げます。私どもの赤十字社の仕事というのは、人の命を大切にし、そしてまた、人間としての尊厳を守っていくという活動を中心に行っているわけなんですけれども、この度、加藤様から提供していただきましたペーパークラフト、楽しみながら家庭そしてまた地域へと広めていくための力強い私どものツールとして今後大いに活用させていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。どうかこれからもご健勝で活躍いただきますようお願いいたします。ありがとうございました。

司会 廣田

加藤様の方からも一言お願いいたします。

加藤氏

2年前に名古屋市消防局を30年勤務して退職しました。退職したきっかけは、やはり現在東日本で起こっている震災の状況を見られると分かると思うんですけども、体力に多少なりとも陰りが生じてきました。私の使命として人助けという言葉が大好きなんです。30年のうち約10年に渡りペーパークラフトを作って色々な方面に提供させていただき、人助けをしてまいりました。消防士時代の間に社会保険労務士の資格を取りまして、今度は年金問題に対し貢献をしていきたいと思い、現在日本年金機構で国民年金の担当をしております。先ほどは、三重県知事様並びに上野会長様、日本赤十字社三重県支部長様より感謝状をいただき誠に光栄に存じます。今後はこの感謝状に恥じないようライフワークとして色々な分野のペーパークラフトを作り、全国の皆様の元気を届ける、こういったよう

な考えでもって邁進してまいりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

司会 廣田

どうもありがとうございました。これをもちまして感謝状の授与を終了させていただきます。それでは推進会議の議事へと進めさせていただきますが、加藤様と日本赤十字社三重県支部の皆様にはご退席となります。本当に今日は遠いところありがとうございました。

それでは資料の確認等をさせていただきます。進行は上野会長の方に引き継ぎますが、まず資料の確認ですが事項書と名簿と、席次表と資料が1～4番まで入れてございます。それからチラシが3枚入っておりますのでご確認いただきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは議事に入りますが、この度の異動で、これまで副会長をお願いしておりました柏木委員が、ご都合により委員を退かれました。ご本人様からは「今後も何かの機会を通じ、安全安心なまちづくりにご一緒させていただくことがありましたら、引き続きよろしく願います。」とのお言葉を頂戴しております。副会長のお席につきましては次回10月の定例会議までの期間、空席ということで皆様のご了解をいただきたいと存じます。それでは以降の議事につきましては上野会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

上野会長

改めましてこんにちは。それでは議長を務めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。事項書がございますので事項書に従いまして順次進めてまいりたいと思います。議題が1～3までございます。まず、議題1につきまして「県内の犯罪情勢等について」警察本部の方から願います。

大西室長

警察本部生活安全企画課犯罪抑止対策室の大西です。よろしくお願いいたします。それでは本県の犯罪情勢につきまして、お手元の資料にもとづき説明をさせていただきます。まず、街頭犯罪をはじめとする刑法犯の情勢についてであります。本県における刑法犯の犯罪刑法犯認知件数は、先ほどもお話に出ましたが平成14年の4万7,600件をピークとしまして平成20年まで6年連続で減少しておりました。平成21年は前年の平成20年に比べ192件、0.8%とわずかではありますが増加に転じております。しかし平成22年昨年の認知件数は2万3,425件で再び前年に比べ2,115件、約8.3%減少しております。こうした状況をふまえて、平成23年中の刑法犯認知件数を2万3,000件以下に減少させるべく犯罪抑止に取り組んでおります。

次に本年3月末における刑法犯認知件数につきましてですが、4,511件で昨年同期の5,057件に比べて546件、10.8%減少しております。罪種別に見ますと県民に身近に不安を感じる犯罪である、空き巣、忍込み、自動車盗、ひったくり、車上ねらい、

路上強盗、強制わいせつ、強姦、略取誘拐の重点対象9類型につきましては、655件で昨年同期の859件に比べて204件、23.7%と大きく減少しております。中でも車上狙いにつきましては、昨年同期441件だったのが312件へと29.3%減少しており、刑法犯全体又、重点対象9類型の減少の中で大きな割合を占めております。そのほかの罪種につきましてもほとんどは減少しておりますが、ただ、強姦の認知件数のみが増加している状況にあります。また刑法犯認知件数に占める割合は高く、県民が身近に感じる犯罪のうち、総量的に抑止を図る必要のある犯罪としてオートバイ盗、自転車盗、部品ねらい、万引きを総量抑制対象罪種として各種対策を行っておりますが、これらにつきましても平成22年3月末で1,554件と、昨年同期の1,950件に比べて396件、20.3%減少しております。特に部品狙いは215件で昨年同期の326件に比べて111件、30.4%、自転車盗は701件で昨年同期の895件に比べて194件、21.7%、万引も443件で117件、20.9%と大きく減少しております。しかしオートバイ盗のみが195件で前年同期の169件に比べて26件、15.4%の増加となっております。このように刑法犯全体で見ますと平成14年に比べて平成22年は半数以下の数字となっております。また、本年も年当初から減少傾向にあり、昨年末では昨年同期に比べて10.8%の減少という良好な状況に向かっているように見えますが、平成22年中の万引、自転車盗の認知件数は、平成14年と比べると万引は平成14年が2,652件であったものが、昨年は2,230件、8年で422件、15.9%、自転車盗につきましても平成14年が5,023件、昨年は4,432件と591件、11.8%の減少にとどまっております。警察ではこれら高止まり傾向にある犯罪抑止のために関係機関、自主防犯活動団体等と連携しての対策や県民の被害防止意識の高揚を図るための対策を推進しております。自転車盗を含めた自動車関連犯罪等の抑止につきましては、駐輪場の防犯設備等の点検実施、駐輪場管理者を対象とした防犯指導の実施、また自転車盗では自転車の盗難を分析した結果、被害者のうち中高生が約半数を占めているという状況にありますので自転車盗難防止モデル校を指定した対策を進めております。4月末につきましては数値が出そろっておりませんので確たることは申し上げられませんが、昨年の4月に比べて本年4月はやや減少していると思われ、このような状況であると予想されております。また、この時期5月から11月にかけて犯罪の発生件数が、例年高水準で推移するという傾向がございます。昨年は5月から11月までは毎月2,000件以上発生してまいりましたので引き続き、気を抜かずに発生実態を見据えた諸対策を行っていくとしております。

次に振り込め詐欺の関係でございます。振り込め詐欺についてはすでにご承知のことと思っておりますが、電話を利用して親族、警察官、弁護士などを装い交通事故の示談金等を名目に、現金を預金口座に振り込ませる等の方法により騙し取る、いわゆるオレオレ詐欺。郵便・インターネット等を利用して不特定多数の者に対し、架空の事実を口実とした料金を請求する文書を送付するなどして、現金を口座に振り込ませる等の方法により騙し取る、

架空請求詐欺。実際には融資をしないにも関わらず、低金利で融資する旨の文書等を送付して、融資を申し込んできた者に対して保証金を名目に、現金を口座に振り込ませる等の方法により騙し取る融資保証金詐欺。税金の還付等に必要手続きを装って被害者にATMを操作させ、口座間送金により不法の利益を得る還付金等詐欺、4種類について統計をとっております。平成22年中は52件を認知しており前年に比べて73件、金額では約6,600万円の大幅な減少となっております。平成23年3月末における振り込み詐欺の認知件数につきましては、12件で昨年同期の11件に比べて1件、金額では約860万円の増加となっております。内容は架空請求詐欺が2件減少しているのに対して、オレオレ詐欺、融資保証詐欺、還付金詐欺がそれぞれ1件の増加となっております。また本年4月にも融資保証詐欺、オレオレ詐欺が発生しており、今後も引き続き増加が懸念されます。警察ではその撲滅に向けて事案の前兆を認知した場合には、関係機関団体の方々へ注意喚起の情報発信を行っていくほか、地域の皆様の被害防止意識の高揚をはかるための情報発信を行っておりますが、さらなる広報啓発活動の取組などを行って被害防止に努めていくこととしています。

次に声掛け事案についてでございます。平成22年度中の子どもや女性に対する声かけ等につきましては633件、前年の616件に比べて17件2.7%の増加となっております。本年3月末現在では151件で昨年同期の120件に対して31件、20.5%の増加となっております。警察ではこれらの事案を性犯罪等の前兆事案と捉えて保護者に対する指導、警告、検挙活動を行うと共に、携帯電話や県警ホームページを通じて不審者情報として発信し注意喚起を行っております。今後もさらに積極的な情報発信とこれら前兆事案に対する指導警告、検挙活動を行うこととしています。最後になりましたが本県における犯罪情勢につきましてはご説明申し上げました様に、数値としては減少しております。しかし今後、増加が予想される特に5月以降から11月、4月もあまり減少していないということから、さらに発生実態の分析を行って先行的な諸対策を推進していくと共に、引き続き総合的に犯罪者に向けた対策を推進していきたいと考えております。また、さらに、県民の方に被害防止のための意識を高めていただくよう各情報発信していきたいと考えております。そこに配布させていただいております資料はその一例でございます。皆様方には以上のような犯罪情勢をご理解いただき、ご協力と協働による取組を今後ともよろしくお願いしたいと思っております。以上で説明を終わらせていただきます。

上野会長

ありがとうございました。今のご説明について質問があるかと思いますが、質問につきましては議題3まで、それぞれにご説明いただいた後に時間を設けておりますので、その時をお願いしたいと思います。それでは議題2、「平成22年・平成23年度安全安心まちづくり事業の取組について」生活・文化部からお願いします。

金川室長

三重県の生活・文化部 交通安全・消費生活室長の金川でございます。よろしくお願いいたします。

それでは平成22年度の事業結果と平成23年度の取組についてご説明をさせていただきます。お手元の資料2をご覧ください。

まず、第1に「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」でございます。この推進会議は県、県民、事業者、市町関係団体が意見交換し、相互に連携協力することにより「犯罪のない安全で安心なまちづくり」を推進するための会議であります。昨年度は5月と10月の2回開催いたしました。昨年は会議の中で、緊急雇用経済対策の一環として実施いたしました「安全で安心な三重のまちづくりくらしづくり事業」に関する活動報告や、「安全安心フォーラム事業」の中で行われました、「みえ防犯キャンパス事業」の開催について講演等を取り入れ委員様からさまざまなご意見をいただきました。この会議の議事録につきましては、くらし安全グループのホームページに掲載しております。

次に2番目、「安全安心まちづくり活動支援出前講座」でございます。出前講座というのは自主防犯活動の立ち上げ等の支援をするための事業であります。平成22年度は5回にわたり部外講師や当室員が県民のもとへ出向き、ひざを交えながら語り、自主防犯活動の活性化等について動機付けを行いました。今年度も引き続き、この事業の存在を県民に広くお知らせをしまして効果的な実施に努めていきたいと考えております。

3番目、「犯罪のないまちづくりリーダー養成講座」であります。自主防犯活動をするために必要な知識を養っていただくため、すでに自主防犯活動をされている方や、今後、自主防犯活動を始めようと考えておられる方々を対象に「犯罪のないまちづくりリーダー養成講座」を開催いたしました。この講座には立正大学の小宮教授、また計画技術研究所の佐谷講師ら多彩な講師をお招きしまして、2日間にわたり延べ144名の方に研修を受けていただきました。

4番目、「安全安心フォーラムの開催」であります。自主防犯活動を促進するために地域のニーズに合わせた講演会等のフォーラムを開催いたしました。平成22年度は津市、桑名市、伊勢市において計3回、延べ450名の方々の参加をいただきました。中でも津市で開催しました「みえ防犯キャンパス」につきましては、県内の大学生が自主的に実行委員会を立ち上げ、防犯や犯罪被害者の支援をテーマとする講演などを行い、若者をはじめとした幅広い世代に防犯活動への参加を呼び掛けました。これにつきましてはテレビ放映もされております。いずれの集まりにつきましても多くの方々にご参加いただき、自主防犯活動の必要性や現状について学んでいただきました。

5番目は「情報提供用ホームページの充実」です。防犯のまちづくりに関する総合的な情報提供を行うため、犯罪のない安全で安心なまちづくりホームページで自主防犯活動団体の事例紹介、それから防犯活動に取り組む企業の活動等を掲載するなど随時更新いたしまして内容を充実しております。

6番目、「防犯チェックシート、啓発用リーフレットの配布」でございます。県が作製しました防犯チェックシートの小冊子や防犯啓発用リーフレットなどを、フォーラム会場や出前講座などをはじめ、みえ犯罪被害者総合支援センター主催でこの2月に鈴鹿市で開催いたしました「犯罪被害者支援チャリティーコンサート」の場におきましても配布し普及を図りました。また各市町の新入学児童に対し、連れ去り防止の5つの約束を記したチラシを配布し、新入学児童の安全確保を図りました。

7番目に「緊急雇用創出事業の実施」であります。平成22年度は2つの緊急雇用創出事業を実施いたしております。1つは「安全で安心な三重のまちづくり暮らしづくり事業」です。県民の安全安心を図るため、街頭犯罪や振り込め詐欺等の被害防止を目的とするチラシや啓発物品の配布などに加えまして交通安全、消費者保護に関する広報物も併せて配布しまして、多角的な広報啓発事業を一昨年度に引き続き実施いたしました。実施期間は平成22年9月1日から平成23年2月28日までの6か月間、従事員84名、広報車両20台を運用し、県内各地で実施しております。さらに昨年度は、「住宅防犯設備普及地域人材育成事業」を実施いたしました。三重県では「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり条例」の第12条に、「県は犯罪の防止に配慮した住宅の普及に努めなければならない」と定めております。また平成22年度は空き巣、忍込みの認知件数が増加傾向にあったことから、平成22年12月1日から平成23年2月28日までの3か月間、15名を雇用しまして、OJT、OFF-JTの組み合わせにより、住宅防犯の専門家を養成する住宅防犯設備普及地域人材育成事業を実施しました。

続きまして23年度に実施する事業についてご説明をいたします。資料2の3ページをご覧ください。基本的には平成22年度の資料をベースに地域が一带となった事業への支援を行う、こういう立場で引き続き事業を展開していきます。個々の事業説明は省略させていただきますが、主なもののみ説明させていただきます。「犯罪のないまちづくりリーダー養成事業」ですが、活発な自主防犯活動が展開されるためにはリーダーの存在が欠くことができません。リーダー養成講座につきましては地域の実情に明るい、市町の防犯担当者と連携を取って受講者の確保に努めるとともに、犯罪防止の権威であります、立正大学の小宮教授など多彩な講師を招請いたしまして、リーダーの拡大等に配慮した中身の濃い事業構成に取組たいと思っております。

「安全安心フォーラム」ですが、自主防犯活動をより一層促進していくため各市町防犯担当者との連携を図りながら講演会などのフォーラムを開催していきます。昨年度実施しました三重大学生など、若者の参加を促す形の「防犯キャンパス」、「安全安心フォーラム」にも努めまして、今年度も「みえ防犯キャンパス」を開催していく方向で現在検討をしております。

以上が本年度の事業概要であります。他部局との連携にも配慮しながら多角的な事業展開を図りたいと考えております。ご理解ご協力のほど、お願いいたします。以上でございます。

上野会長

ありがとうございました。それでは続きまして議題3、「平成23年度学校安全に係る取組について」教育委員会からお願いします。

和田室長

失礼いたします。教育委員会から「学校安全に係る取組について」ということでご報告をさせていただきます。

資料3をご覧ください。子供達が安全で安心して教育を受けられるようにするために、家庭や地域の関係機関、団体と学校が連携しながら子ども達の安全確保に関する取組を進めていく必要があると思っております。安全確保については学校や通学途中に起きる事件や事故が大きな問題となっております。真ん中に表を入れさせていただきましたけれども県内の不審者情報、これは県の教育委員会に報告があった数でございます。昨年度は2月末現在でございますけれども800件。特に小学生・中学生に対するのわいせつ、露出事案等が多くなっています。それから不審電話については、一部の地域で子供達の情報を聞き出すといった様な不審な電話があったということもありまして、数が少し増えておりますけれども、毎年600件を超える不審者情報が教育委員会の方に寄せられている状況があります。年々増加するという傾向がありまして、このような状況に対する取組が大切だと考えております。このため地域のボランティアの皆様のご協力をいただいたりしながら、地域社会全体で子供達の安全に取り組む体制の整備を図るということで、平成17年度から小学校におけるスクールガード、学校安全ボランティアの組織の整備と、活動の充実のための支援を教育委員会としては行ってまいりました。その結果17年度から少しずつ増えて参りまして、昨年度は小学校のスクールガードの組織率は98.7%となり、ほぼすべての小学校において学校安全ボランティアの組織を作っていただきまして、子供達の特に通学の途中の安全を確保するというような取組が進められているところでございます。今後、スクールガードの組織の活動が、さらに充実していく取組を進めていくことが必要であると思っておりますし、さらに子供達自身が自ら防犯に関する知識を持って、自分たちの身を守っていく危険予測、回避能力を高めていく様な取組をさらに進めていきたいと教育委員会として思っております。そこで、2番のところでございます。教育委員会として今年度、重点的に取り組んでいきたいという項目として、3つあげさせていただきました。1点目は「子ども安全安心サポート緊急雇用創出事業の実施」ということで、これは県内に登下校安全指導員という方を配置いたしまして、スクールガードの組織で子供達の安全を見守っていただいているスクールガードのみなさんと一緒に、その活動の充実を図るために取り組んでいただいたり、不審者の情報がたくさん寄せられているような、県立高校の通学路の安全を確保するというような取組をして、子供達の登下校の安全確保に努めていきたいと考えております。

2点目は「防犯教育実践事業」これは今年度リニューアルをいたしました、新しい事業

でございます。この2つ目の事業につきましては、子供達自身の防犯に関する危険予測とか、回避能力を高めるために具体的な学校ワークショップ的な要素を取り入れた学習を学校でやっていただき、子供達に危険を回避する力を育てていく取組をしていきたいと思っております。また子供達や教職員、保護者等対象に防犯意識を高めるための講演会等も取り組んでいただく学校に対しての支援を行っていききたいと思っております。

3点目でございます。これは教職員を対象とした講習会の開催でございます。まず、学校において安全安心な取組を進めていくためには教職員の質、力量を高めていくということが大きなポイントであろうと考えております。そういう意味では、今年度も教職員を対象とした講習会の開催をしていきたいと考えております。学校における防犯訓練等の推進、それから児童生徒の危険回避能力を育成するための防犯教室の実施、交通事故防止のためのルールやマナーの指導などを目的とした、講習会等を今年度実施する予定でおります。今後の方針といたしましては小学校におけるスクールガード組織が、ほぼ出来上がってまいりましたので、その活動が様々な地域の防犯の組織と一緒に子供達の安全を守っていただくような、そういう活動の充実、活性化を図っていくということと、現在、中学校区におけるスクールガードの組織は48.5%、50%弱です。中学校区におけるスクールガードの組織化を一層進めていききたいと思っております。また、全ての学校において防犯教室、地域安全マップの作成、また交通安全の指導が実施されるように、教育委員会としても各学校に働きかけを進めていききたいと思っております。また何よりも効果的な不審者情報の配信がされるというようなことも大事だと思っておりますので、各関係機関との連携を一層強くして、子供達の安全を確保する体制の整備を図っていききたいと考えております。以上でございます、よろしくお願いいたします。

上野会長

ありがとうございました。それでは議題1から3につきまして質問ございませんでしょうか。どうですか？

犯罪情勢について警察の方から、議題1のところでも詳しく説明をいただきましたが、これは減少しているけれども、5月以降は色々な要素で、少し増える兆候がある、というお話だったと思いますが、これは過去の年度と比べてどうですか？それはすでに実感としてあるのでしょうか？

久保委員

平成22年、昨年2万3,425件というのが1年間の数字なんですけれども、昨年も1月、4月については、ある程度少なかったんですが、暖かくなってくる5月から2,000件を超えまして、11月ごろまでずっと2,000件を超えておりました。12月はどうしても最終の年末から年始にかけて、犯罪抑止を図るため街頭活動を中心に活動をするわけですが、そういう部分で押さえ込みという言葉はあまりよくないんですが、

見せる活動をしっかりと行い、認知件数が2,000件以内になったということでこういう結果になりました。過去の例からもどうしても暖かくなってくるとみんなが外に出るといことで犯罪が増えてくる。例えば外出することで空き巣が増える。子供達が外に出ますから、自転車を置いてどっかに行ってしまう。その間に自転車が盗られる、オートバイが盗られる。というような形でどうしても活動的になった時に犯罪が増える、というのは毎年の傾向でありまして、1月～3月、今年は少ないんですけども、4月はあまり減少していないという感じがいたします。

上野会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。どうぞ。

南部委員

私どもの町だけとは違うと思うけど、3・11の地震の後、たばこがなくなった。店屋さんからたばこがなくなった。というので子供達がたばこを目当てにたくさんたばこを盗みに来てる、という現状を私どもの町で見るとは、ほかのところではそんなことはないんでしょうか。東北の地震の後で店屋さんからたばこがなくなっている。1箱しか売れへんとか、そういうような現状の中で、本当は吸うたらあかんのに、その子供達がたばこがなくなったがために盗みを働く。私の家のすぐ横がたばこ屋さんなんですけど、昼間に下見をしておいて、なんであんなところから入れるんやろうと思うようなところの鍵を開けといて、そして夜に、家人が寝静まったあと、裏から入り、たばこだけを盗んでいく。ちょうど、盗んだたばこがなくなったと思われる昨日、2人の男の子が、その家の周りをウロウロしてたんで「何やった、どうしたん。」て聞いたら、「なんでもない、おばさんには関係ないんや。」と言って逃げっていった。

今夜頃は危ないと思い、警戒態勢を取っていたということもあるけど、他にも、もう一軒違う店に聞いたら、同じように、たばこを盗みに来た中学生がおったという話を聞きました。

今、この東北の震災が、三重県には影響がないと言われながら、このような話を聞きました。私の町では、こんな状況なんですけど、他の町はどうなんでしょうか？警察の方がみえますが、どうでしょうか。

久保委員

今のお話の、たばこだけ盗むという手口の詳細は分かりません。ただ、南部さんのところだけという意味ではないと思います。ほかでもあるんでしょうけども。

南部委員

分からんだけで、本当は、いっぱいあるんと違うやろか。

久保委員

警察が把握してないだけであって、対象物がたばこというような事案は、他にもあるんだと思います。私どもも詳細まで把握してないんで、そうですという言い方はできないということです。ただ、物が少なくなっているというのは確かで、ただ私もスーパーに水を見に行ったところなかった。最近は水も売場にだんだんと置いてもらうようになってきたんですけど、当初、東北地方でなくなった、東京でなくなったという話を聞いた時に、三重県はどうかかと思ったらやっぱり少なかった。皆さんも感じられたと思うんですけども、そういうような部分で、あるところから取っていこうということで、そういうことに走った子供達なんですよ。子供達がいた可能性はあると思います。

南部委員

教育委員会の人もたくさんみえてるんで、そういうことに対して私たちは一般市民なんで、こういうやり方が良いですよという知恵があれば是非聞きたい。こんな風に指導したらあかんということがあれば。

上野会長

教育委員会の方からコメントありますか？

和田室長

ありがとうございました。たばこの状況は、まだ私たちのところまでは情報が上がってきていませんので、貴重なお話を聞かせていただいたなと思っています。たばこだけではなく、色々な犯罪行為が中学生、小学生にだんだん下がってきているという様な状況があります。学校としてはやっぱり何がいいのか、何がいけないのか、というルールをきちんと教えるっていうことはとても大事だと思います。ただ、学校の中だけではなく、地域で起こっているというようなことについては、やっぱり地域でいろんな人達が、大人が見守っているという、大人の目があるっていうようなことを、メッセージとして送っていくということはとても大事だと思っていますので、ちょっとした所で声を掛けていただいたということは、本当にありがたいことだなと思います。学校としては、教育ということできちんと子どもたちに教育をしたいと思っておりますけれども、地域のそんな声を聞かせていただいて、一緒に色んなことを進めていくと言うことは大切ではないかなと思っております。ありがとうございました。

久保委員

南部さんよろしいですか。もし、今後そのようなことがあったら警察に知らせていただけないでしょうか。

南部委員

知らせましたが、そしたら返事は、「パトロールは何度もしてますが、それ以上はまだ」と言われたので「あー、そうなんか」と思いました。わざわざ青色回転灯をそんなに点けなくても、うるさいおばさん達がそこらここらに立っているということだけで、すごい青色回転灯以上の怖い力を持ってるとやなあと、私は思ってますし、パトロールさんが来てもらうと余計いいなあと思えますけど、やっぱりそうやって「おばさん関係ないんや」と言われるとひるむんです、私たちは。やっぱり命怖い、なんかやられたらあかんなって。ちっともやられへんけどな。やられへんけど、そうやってきました。

久保委員

それが一番効くと思うんですね。地域の絆とか地域住民の規範意識といったことから積み上げていくものだと思いますので、そうした一つ一つの声かけ等が非常に重要であり、1度では効かないと思いますので2度・3度と繰り返し実施していただきたいと思います。

上野会長

ありがとうございました。ほかに何かありますか？

山本講師

座ったまま失礼します。南部委員にダイレクトにお答えします。私、伊勢から参りました。伊勢では起こっております。どういうことかと言いますと、子どもが3人ですね、自動販売機じゃなくて、高齢者のたばこ屋さんに3人で入ってきます。一人はトイレを貸してください。一人はたばこをちょうだい。一人は店をブラブラと。たばこを狙った事案がございました。私が聞いているだけで3件ほど伊勢市で起こっております。ただそれは全て未遂に終わってます。というのはそのたばこ屋のおばちゃんもですね、結構しっかりした方だったようです。だから変にトイレ貸してちょうだいで3人組で複数の人達が来た時は、貸さない方がいいなと。このように思います。以上よろしいでしょうか。

上野会長

ありがとうございましたほかに、どうぞ。

宮西委員

自動車盗難に対してはグラフで見ると鈴鹿が非常に多いんですね。鈴鹿、伊賀、それから松阪市ですね。これは何で鈴鹿がそんなに多いんでしょうか。ちょっと教えてほしいんです。なぜかっていうと、四日市、鈴鹿、伊賀、松阪とか外国人が結構目立ちますので、なぜかなとか、何かが起きてるのかなという感じです。

久保委員

全体の数字、この自動車盗だけでどうしてかという答えにくいんですけど、三重県全体の犯罪の情勢を見ますと、犯罪率、犯罪被害に遭う率が鈴鹿市が一番なんです。全体でも鈴鹿署がトップなんです。その他近鉄線沿い、伊勢湾岸沿い、四日市だとか松阪等も多くなっています。鈴鹿が特に多いということ、この数字が出ておるのではないかなと。自動車盗が多いだけじゃなくて、ほかの犯罪も多いんだと思います。

宮西委員

なぜかっていうと、外国人が多い町ですね。外国人も今、非常に色々な経済状況に対して不景気なので、それと取組が足りないんじゃないかなと。四日市と比べたら、四日市も非常に外国人が多いので、色々なことに力を入れたんですね、その外国人への取組があって、犯罪を減らせたので。ところが鈴鹿は何でこんなに多いのか、もし外国人が目立つということだったら鈴鹿とほかの町、外国人に対して何かが足りないんじゃないですか、取組などが、そういう意味です。

久保委員

外国人が多いから犯罪が多いんじゃないかというお話ですか？

宮西委員

そうではありませんが、私が今まで知っている外国人は、車に対して盗難とか車上狙いとか、外国人が数字的に目立ちました。その数字が目立っているので、なぜ若者の外国人がその道にいつてしまうのか、色々なことを調べたらやっぱり家庭からの問題とか、色々な教育が足りないということも、未来の見えない子供達だったので、それらのことが多くあったんです。それが四日市だったんです。色々な取組を一生懸命やりましたので、四日市はだいぶ犯罪が減りました。そしたら鈴鹿の町は隣なのに、何でこんなに多いのかなと。もし、外国人が多いことで数字が目立つのであればどうしてかなと、そういうことです。

久保委員

これは鈴鹿署は鈴鹿市を一つで持っている警察署なんです。四日市北、四日市南、四日市西、四日市は3つの警察署があって、全部足していくと数字的には同じぐらいになるのかなと。ただ、外国人の方の対策を四日市はやられたんでしょうけども、鈴鹿でも同じように共生するという事で色々な対策を取っていると思っています。というのは警察だけじゃなくて、色々な組織、団体しっかりやってもらってると思いますので、今、鈴鹿市としては全体的に高い。四日市としては3つに分かれているので、少ないんですけども四日市も数は多いということなので、これを外国人に対して、我々は外国人の方が犯罪は多いとか少ないとか鈴鹿だけが多い、というようなことはないと思います。

宮西委員

それはもちろん分かります。全部足したら四日市は多いです。そういう時のデータとしては、一応外国人も日本に住んでいるのですから外国人のデータも欲しいです。目立つというのであればですが。

久保委員

外国人の中で犯罪を犯した方？被害に遭った方？両方ですか？

宮西委員

そうです。だいたい犯した方が分かれば、何で犯したのかをまず考えます。それがここに住んでいないのであれば必要はないですけども、実際には住んでいます。最近ではなかなかブラジルに帰らない人も増えてきています。その何%とかが目立つのであれば、やっぱり課題としてデータを出して欲しいです。そしたらそれが何故かを調べて欲しいです。そういう外国人に対して、まだまだ色々な取組が足りないと思いますから。

久保委員

全体的に日本人が多い。その中の外国人なので、そういった面で目立っているのかと思います。

宮西委員

特に今、経済の色々な問題がありますのでね。

久保委員

外国人より、やはり日本人は多いですし。

宮西委員

もし、目立つのであればデータが欲しいです。こういう会議にも、もしできたらですが、お願いしたいです。

久保委員

外国人が、たくさんあればということですね。

宮西委員

そうです。あんまり多いということだったらですね。長くなりました。すみません。

上野会長

ほかによろしいですか。それではご質問が無いようですのでこれで第1部というか、ちょっと休憩をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

休憩

上野会長

それでは、時間になりましたのでただ今から意見交換の時間とさせていただきます。

本日は伊勢市吹上町内安全防犯徒歩パトロール隊 総括山本 優様にお越しいただいております。山本様は平成17年に美和ロック株式会社を定年退職されまして現在は津市にあります三重県金属プレス工業会の技術顧問、また、三重県中小企業ものづくりMAP作成事業の企業調査員の仕事をされています。伊勢市吹上町内安全防犯徒歩パトロール隊は、平成17年3月に町内における安全安心の確保を目的に、特に社会的弱者と位置づけられている児童や高齢者を対象に犯罪や事故から守るための、自主的かつ自発的な活動を積極的に展開されております。本日は現場での生の声をお聞きしたいということで、お越しいただきました。それでは山本様よろしく願いいたします。

山本講師

みなさんこんにちは。ちょっと服装を替えてみました。そうそうたる皆様の前です。講師というお話を聞きましてですね、急遽変更させていただきます。座談会の場にしたいと思っております。ちょっとビビっております。資料は6枚ございます。まずは一番はじめにプロフィールというのがありますけれども、そのあと、絆という人間愛これは3ページございます。その次に表が出てきます。最後にプロセスで5つの荒骨と書きまして、組織化をするための要点をチラッと書いておきました。今日ここにおられる谷口主幹はよくご存知なんです。この資料、今朝の3時7分に谷口主幹の方へメールを打ちました。ほとんど私は寝ておりませんが、お話をしてみたいと思います。それでは資料に基づいてお話をしてみたいです。まず、プロフィールですが地域安全の取組ということで、上野先生がおっしゃった様にですね、大まかなことはお話ししていただきました。それでそこに書いてありますのは、まずですね、平成17年10月の3日にキックオフいたしました。6月に準備会やりまして2名、そして4か月後の10月にはですね25名で結成いたしました。なんと今日からですね5年8か月前の話なんです。現在ですね私たちの活動はですね、継続することは大切だと。いったん馬力ではダメだということで、そこに太い文字で書いてございますように「継続は力なり」と誰かが言ったようにですね、そして「永遠にして無限なり」といつまでもやり続けなきゃいかんということです。現在43名の隊員がおりま

す。吹上町の住民がですね世帯数で682世帯。そして人数はですね1,359名ということですから、約3%弱の人間がですね、パトロール隊にはいるということです。そしてこの私たちの何をやるかということで、今から5年と8か月さかのぼってみますと、どこの指導も受けておりません。その時は市役所も警察も一切おかまなくて、私ともう一人の相棒で2人で自己流でがむしゃらでやって参りました。そして出た答えはですね、まずスクールガードをやらうと。やはり犯罪弱者というのは、児童ともう一つは高齢者と、この2つではなかろうかということで、2つの柱を掲げる中で、スクールガードをまずやりましょうということは、やるのはいいいけれども、ただ立っているだけではつまらなと、ということで固定地点の見守り活動。これは交通安全を含みましてですね、やらうとということですね、といことと、もう一つは同伴、一緒に学校の校門から地域まで約32~3分かかるんですが、校門から連れて色々な町、子供達を引き渡していきます。最終は私の住んでいる吹上というところです。そういうところにですね、スクールガード、ここに書いてあるように固定地点の見守りと、それから学校から地域までと、毎日やっております。ただし、私も仕事持っておりますので私が全てやっているわけではございません。43名の隊員がですね、約15~6名の方で、これに従事していただいております。先ほど教育委員会の方からお話がございましたが、スクールガード・スクールボランティアというのがありますけども、私たちは一切学校からも要請を受けておりません。市からも受けておりません。教育委員会からも受けておりません。全くの自主ということで私たちのパトロール隊が、このボランティア活動に従事しておるということです。

それと2つ目に夜間パトロールです。これは2班ございまして、毎日2班回っております。1班が3名から4名です。年間稼働率約100日、を夜間パトロールしております。これ以外にパトロール隊員の車ですね、青色回転灯は付けませんが、パトロールカーとして、過去に犯罪の起きた場所とか、起こりそうなところとかそういったところを車で夜間パトロールしています。

もう一つは今日のメインテーマですが、絆行動ということで高齢者のみなさん方にターゲットしていきます。毎月100名前後ですね、独居と高齢者のみの世帯を重点的に回っております。これは後ほど詳しく資料を含めましてお話してまいりたいと思っております。

4番目に早朝パトロールとゴミ拾い。今日いただいた資料の中にもありますが、きれいなまちというペーパークラフトの中にも入ってますが、犯罪のないまちですね、汚いまちは管理がされてないということで犯罪が起こりやすいですから、吹上の場合もゴミ拾い活動しております。ただしこれは水曜日だけです。朝の6時15分から8時過ぎまでです。これは近鉄宇治山田駅からですねJR伊勢市駅まで、全域をやっております。この場合だけ徒歩じゃなくて自転車を使っております。それからレジ袋をですねハンドル2か所、後ろに2か所、4つのレジ袋をパトロール隊員は持ってます。拾いながら分別するんです。一番右のところに燃えるごみ、ハンドルの左にビン、後ろの右側にペットボトル、それから後ろの左側にカン、この4つの物を仕分けしながら回っております。実はこれちょっと

余談ですけども、この姿をですね、吹上町の隣町、そこに82～3歳のおばあちゃんがいるんですけども、そのおばあちゃんが私たちの回っている姿を見て感動していただきました、カゴなんですけど、荷造りテープをうま～く編んだですね、なぜか43名しか隊員はおらんですけど50個いただきました。私が7個ねこばばしております。そういったふうにですねほかの町の方にも、ささやかな手作り、真心をいただきまして隊員と共に喜んだことがありました。

それから5番目最後ですが、率先して伊勢警察署とタイアップということですね。結成当時は一切警察とか行政と接触しませんでした。しかし今はですね、警察業務に協力ということで、伊勢警察署は歴代の署長が立派な方でして、担当者の方もですね非常に立派な方でして、街頭活動を大いに協働させていただいております。例えば駐輪場の問題、公共交通ですね、金融機関ですね、15日と16日。最近はですね金融機関は我々は回りません。金融機関はご承知のとおり、銀行の人達がATMに立ってくれとるんですよ。私たちはどこを回るかという、具体的に言います。ララパーク、伊勢市のララパーク、伊勢ジャスコ、それから大型店舗バロー、ATMの監視員のいないところ。そこはですね振り込め詐欺、犯罪者にすると非常に良い場所らしいので、我々もそういうところをパトロールしております。吹上町内には大型店舗はありませんが、吹上のみなさんも大型ショッピングセンター行くだらうと、被害者になったら気の毒だということで、遠いところも手分けしながらこのユニフォームを着てATMのところまで立っております。今のところ不審なことはございません。そのようなことでやっと、3番目ですけども、昨年10月からですね絆行動。セーフティー構想というのが芽生えてまいりました。そして私たちの人生の大先輩である、高齢者の皆様方にですね、訪問させていただきまして、なんらかの形で、お手伝いすると、お助け申し上げると、お礼するというようなことをやっております。

次3ページでございます。まず、吹上のスローガンとして、三重のスローガンは「安全安心まちづくり 吹上！」これは平成17年に立ち上げた言葉です。これをメインテーマとしています。そして「我が町吹上の安全安心なまちづくりは、我が手で！」と。みなさんのおっしゃるようになりますね、自分達の安全は自分たちで守ろうよと。人に任せるんじゃないで自分たちで守ろうよというのがまず1つ目。2つ目「みんなで守ろう、かけがえない命を！」命に関わることはすぐ動こうと。そして3番目には昨年10月に立ち上げました「高齢者の皆さんに優しく、歳を取っても住み続けられるまちづくり！」という町にしたいなど。というようなですね3つ考えました。伊勢市ですね独居老人がですね、亡くなっているという、何日間も発見されなくて、ご遺体が相当損傷していたということも一昨年もございましたし、昨年もありました。ということはやはり吹上ではないんですが、高齢者の方がですね案外地域の方々と接触してないなあと。ボランティア、奉仕活動ということで色々動いておられる方は、子供達については相当動かれておまして、ところが高齢者というと比較的少ないんです。それではダメだとうことで吹上も児童と高齢者という二本柱を掲げてますから、高齢者に力を入れようと。そして昨年10月に立ち上げた経

過があります。一番上の方に先ほど申し上げた住民情報が入っております。約700世帯の1,400人です。これは何かというと、10の自問ということで、私たちパトロール隊員が地域のことを認識しているだろうか、知ったかぶりをしていないだろうか、ということで自問しました。1として家族構成はご存知ですか？あるいは独居高齢者や高齢者夫婦の世帯があるところあなたは知ってる？周り近所ですね。そして3番目には災害時要支援者、みなさんそういう関わるがあると思うんですが、そういう方がいるんじゃないだろうかとか。そういったことをですね、考えた上で次の行動に移りましょうよと。

そして3/3ページ、人生の大先輩、一番上に書いてあるとおり、高齢者の皆さんに。私たちはいつもの動きをしなきゃいかんと。例えば、絆行動一番として、独居高齢者や高齢者夫婦の皆さんに声かけしよう。そして顔見知りには案外ある。しかし心の結びつきが本当にあるだろうか。本当の地域仲間というのは、心の結びつきが必要であって、それで初めて共助関係ができる。何かあった時助けることができるんですね。そういった意味で真の地域仲間を目指そう。それは声かけから始めましょう。2番目にですね、お尋ねしよう。やはりお互い近づいていこう。そして良き相談相手になろうよと。相談顔色、顔つき、言葉を観察していますと色んな問題が挙がってきますね。ここに一冊の本があるんですけども、ここに絆という人間愛とこういうジャーナルを作っております。これは高齢者のお宅を回った時の記録を、全てとっております。それで、例えば4月23日、13名が回って0件の留守。その前は4月の20日、3日前ですね。55名回って6名留守と。ライフマークという項目に印付けすると。そして民生委員に連絡しなきゃいかん場合は連絡しますし、警察に連絡しなきゃいかん場合は連絡しますし。そういったことをチェックすると。昨年の10月27日からやっておりますけれども、まず、何かお手伝いすることはありませんか？と声かけをすると必ずありますね。皆さん方まだまだお若いですから、高齢者の寂しさご存知ないかもしれませんが、我々が行くと30分ぐらいつかまってしまいます。30分ぐらいでもよし。1時間かかってよしと。それぞれ1日一軒でも良いと。我々が回ると3時間半の間に20軒も30軒も回るんですけども。1日一軒でも良いから、とにかく誠意を尽くしてお伺いしなさい、とっております。先般、隊員から聞きましたけれども25分ぐらいかかりまして3軒しか回れなかった。と言う人もいます。それでいいよと。献身的にやるのは、絆というものを大切にしている人だから、少々時間がかかっても、高齢者の人と話をしなさいと。というようなことをしております。そしてあと3番目、催し物、去年の10月に餅つき大会をやりまして、相当な方々に参加していただきました。引きこもりから脱皮したと喜んでいたという高齢者のみなさんもいました。町内の催し物に出ていただく様な行事をすると。

4番目にはですね。参加をさせるということです。どこの地域でもやっておると思うんですが、私たちは町内の異常は高齢者の方々にお願いしております。そこに書いてあります様にカーブミラーが損傷しとるよとか、不法投棄のゴミがあるよとか、放置自転車があるよとか。おかしい人がいたよとか、そういうようなことをですね、老人会の吹上シルバー

サロンという老人会がありまして、そちらにもお願いしまして、高齢者の皆さんに情報をいただいております。情報をいただいておりますということはその人達が間接的、直接的を問わずですね町会、地域の活動に参加していると、何にもやらないんであれば活動に参加しないと言うことですね。心の結びつきを大切にやりましょうよと。ということですね。というのは1つに認知症にかかっておる、かかりつつある、私もかかってきたんですけども。そういう方ですね、民生委員あるいはご親戚など、独居高齢者が私は訪問しませんけど、その方のお子さん我々の緊急時の連絡先も掴んでおりますので、そこへ連絡して、ちょっとおかしいよと。我々がおかしいよと言っても全然怒らないんです。そういった日々面倒を見る、あるいは、支援しておるといふ行動と、難しい話ではないんです。ただ、やるかやらないかの話です。吹上の場合はですね、それをどうしてもやろうと。なぜか、実はですね、高齢者率が伊勢市で上位なんです。伊勢市で65歳以上の町は上から2番目ぐらいかな、高齢者率42%です。伊勢市の平均は24%、おおざっぱにいうと倍。だからちょっとかなりの高齢化。じじばばの町です。しかし伊勢市のど真ん中にあるんです。もうひとつと言えるのは、じじばばでも住める町やから吹上という町は素晴らしい町だと思うんです。なかなかね、高齢者難民、買い物難民という言葉ありますね。30年前に家を建てた。30歳で今は60歳。そろそろ足腰痛んできました。家を建てた30年前より間違いなく足腰痛んでですね大変だと。歩くのだけで大変だと思っております。しかし吹上の場合はですね坂は一切ございません。みんな平ら。なぜかと言いますと。町場ですから。

それでは最後ですけども、3 / 3 ページの下の方ですね、4行目、そこで第1段階として吹上町委員のみなさん。そして吹上安全パトロール隊のみなさん。この2つのグループを絆行動を率先する二本柱としております。順次、絆行動を実行して、去年10月27日に投げかけをしました。ありがたいことにみんな動いてくれてます。このことはですね第2段階ではですね、吹上地内全域でやりたいと思います。でも、まだまだ無理ですから、40名50名の役員でとりあえずやりましょうと。その姿をみなさん見てくれてますから徐々に徐々に一般の住民の方々もですね、参加していただいて、もっと高めるためには我々が頑張らないかん。来年には住民全面展開ということを目論んでおります。

その次のページは、絆行動の先ほどの件です。これは私のチャートを持ってきました。パトロール隊員が表に自分の名前を書くんです。自分で回った所、自分が所管している高齢者のお宅、高齢者の人生の大先輩の掴んでることを書くんですね。それではですね、最後のページ。プロセスですけども、これは5年8か月前なんですけれども、やはり自主防犯活動団体を勢いついて大人数でやると、こけるところが多いですね。だからいきなり大人数を避けるのが望ましいよと。今までこううまくいったのは少人数でやる、徐々に増やすと。伊勢市でもパトロール隊員が増えているのは吹上だけなんです。あとはだんだん減ってきた。冬眠団体が増えてきた。冬眠とは何かと、眠っていると。名前はああるけど活動してません。5つの現れとして、1つは活動の目的を合わせようということ目目的をやはりしっかりとはじめに、地域住民の方々、あるいは会員隊員の方々が認識していかない

かんと。安全安心はタダではできないよ、金もかかるよ、知恵も必要だよと。あるいはやる気も十分いる、体力も必要だよ、というようなことを私は徹底的に教え込んでおります。2つ目に、できることをまずやってみよう。ただし、いつまでもできることだけに執着しないこと、ということで我々は隊員に言ってます。さらにどうしてもやらねばならぬことをやろうと。少々難しくても。例えば、絆行動なんてほとんどパトロール隊やってないんです。三重県下でも少ないと思いますよ。この話は三重県警本部の河合本部長もご存じだと思いますけれども、絆行動のことをです。やはりそういったことを、少々手間暇掛かるけれどもできることをやったら、次はちょっと難しいことに挑戦しよう、こういうことを2番目にうたっています。3番目にですねパトロール隊の約束事を決めましょう。自主防犯活動を自由勝手活動にしてしまうパトロール隊が多い。皆様方には、そういう場面があることを、お分かりだと思いますけれども。自主活動だから強制しないでくれよな、今日はパトロール行けないよ、いとも簡単に約束を覆す隊員の方お見えになる。自由勝手活動になりやすい。我々は自由勝手活動じゃないよと。自主防犯活動はそうじゃないよと。自主活動のなかでもやはりルールや決め事、やらねばならぬことがあるよと3番目でいっております。4番目は組織図をそれぞれの役割分担ということがどうしても必要です。それぞれ役割を決めるということですね。最後に5番目です。プロフィールを作成すると。やっぱり全体図を作るということです。最後に、出来ない説明する前にできる方法を考えようよと。何があっても難しいことを言う人沢山おるんですけども、そんなことよりもやる方法を考えようよと。まず、行動してまずいことがあれば改善していけばいいじゃないのと、ちょっとフランクな物の考え方で、ぶつけていくとうまくいくのではないだろうか。あとですね、今、伊勢市では警察の把握している数で、38の自主防犯団体があるんですけども、その連絡会議を立ち上げようと、今まで伊勢市はバラバラ。何も連携しておりません。それをやっぱり連絡会議を作って横連を作って、自主防犯活動団体で運営する連携機関を作ろうということで、今やっています。伊勢警察生活安全課と伊勢市役所危機管理課、そして我々の自主防犯団体の8団体です。居眠りしない冬眠団体でない8団体が今やっています。それが出来ましたら冬眠の団体を起こそうと、というようなことでやっております。はい、それではまた資料を多く読んでおいてください。ごめんなさい、ありがとうございました。

上野会長

ありがとうございました。

大変興味深い話、今山本さんのお話の中で、昨年この会が開かれる時に申し上げたのは、地域の安全安心まちづくりに関する条例に基づいて、様々な努力がようやくこう実を出し始めた時期になったと。そういう意味で、それは一つのまちづくりのための運動が、第1段階を通過して第2段階に。その第1段階から第2段階に上がるという時に、一体何をしようとする方がいいのだろうか、ということ、もちろん第1段階で消化されてないもの沢

山ありますけれども、それはそれとして第2段階に持って行けばいいわけで。自主防犯団体同士の連携ということを申しました。その連携を、素早く取っていただくということが重要なのではないか。これが第2段階の一つの形になるんじゃないか、というお話をしました。絆行動というのが今、山本さんのお話を聞いて思ったんですけど、これがやはり一つのキーワードだなと思います。それは感想だけなのですが、これから少し時間を取らせていただいて、山本さんに質問、あるいはもう少し説明して欲しいと言うようなことがございましたら発言をしていただきたいと思います。

松吉委員

山本さんに親しくさせてもらってますんで申し訳ないんですけど。直接、直裁に聞きまして勘弁してください。冒頭の犯罪の認知件数の推移を見てもそうなんですけど、平成16年に比べてほとんど半減しているんですね。その中でももちろん県も、県警も本当にご努力なさってここまで来たんですけど。本当にそれだけなんだろうかと。何で半分まで減ったんやろうと。そうするとやっぱり自主防の活動と、施策の一つである緊急雇用の様な形でのセーフティーネット。そういったものの貢献が大きいと思います。ところがおっしゃるようになりますね、550を超える団体の中でどれだけ動いとるのかと。何で続いているんだろうというのを、思うんですね。そこは山本さんのパワーだと思うんですけど、5年8か月とおっしゃいましたが、ここまでできるもんなんだろうかと。ほかの組織にね。絶対必要な組織であることはよく分かるんですけど。今後ですね、横連とおっしゃいましたけどそのあたりでですね、どういう風に皆さんに影響を与えていただくのか。もう一つはお年もですね、我々よりも少し上でございますので、活動してもらっても後10年ないやると。このあとどないすんのと。そういうことをですね、生で聞かせてもらいたいんですね。次の後継者どうすんねんと。そんな気がするんですけどね。

山本講師

後継者ですけども、後継者は作ってあります。私、5月末日をもってですね、総括の座を降ります。何になるかという、一パトロール員になります。ただし、公に引き受けている問題、例えば県の方の仕掛け人であるとか、少年警察共助員とかそういったものは継続してやってきますけども。パトロール隊の総括についてはバトンタッチをします。すべてUSBに仕込みまして、次の人に渡してあります。ただし、今月いっぱい総括降りるからといって、もう知らないというのじゃなくて、先人として分からないことがあったら私が手伝っていこうと思っています。それから横連の件ですけども。横連の件はですね、伊勢市役所は77団体と言っておるんです。平成25年、もっと先なんですけど100団体にしよう。私はね反対しました。今でもね、ほとんど眠っておるのに、それを揺り起こすのがまず先だ、ということで去年、生活安全課の小林警部と私と結託しまして、組織を動かして、いずれにしてもできたら横連ということで、お互いに情報提供をですね、大

げさなことを言ったら指導が入るんですよ。プロフィールの作り方知らない人もおる、防犯日誌の作り方知らない人もおる、防犯マップの作り方を知らない人もたくさんおる。そういう初歩的な技法というのはわれわれほとんどの人間がマスターしておりますので。出前講座で出前出張します。無償で。まず、その次伊勢市全体でやろうと。横連は絶対に必要ですし、是非作っていただきたいなと思いますね。

上野会長

ほかにいかがでしょうか。

山本講師

犯罪件数のことですが、吹上の場合はですね、平成21年1月から12月の期間に97件、街頭犯罪認知件数97件、去年の1月と去年の12月の間、認知件数が35件減ります。多い時は119件、平成19年あるいは17年も多かったですね。中身が変わってきています。侵入盗がなくなってきた。威張るわけじゃないんですけども、パトロール隊ができるまでは、侵入盗、空き巣、居空き、忍び込みこれは2ケタ。多い時で20件、今は0件です。ただし平成18年に1件だけ忍び込みが起こっております。それは抑止活動になってるんじゃないですかね。43人が動き始めると結構なもんですよ。よく目立ちます。伊勢警察の方がよくいいます。「吹上さんよう動いとるなあ」と。犯罪が減っているということです。

上野会長

ほかによろしいでしょうか

山本講師

慰労としては、回転寿司でひとり1,000円、年1回お金をいただきまして、公民館で寿司食って、これ1回だけ。もちろん、1,000円の寿司で1年間ありがたいことです。みなさんもやられたらどうですか？

上野会長

もしなければ山本さんが言っていたく前に、色んなところからの説明がありましたがその説明に対してでも結構です。

南部委員

一つ、これの会費はどんな風になっているか、という事と、何年も早朝パトロールをしてゴミを捨てるって書いてあるんですが、そんなに汚いんですか？私とこの町では、1週間に1回ゴミ拾いするだけで、何もゴミなんて落ちてへんのに？伊勢はお伊勢さんで守ら

れてて、とってもいいところで、きれいな町と聞いているんやけど違うんやなあと思ったんで。

山本講師

まず、お金の問題を言います。会費は一切もらっていませんが、今期は31万2,123円使ってます。1年間。活動費は町会の方から45万予算立ててます。町会の方から防犯費ということで取っております。

南部委員

自分たちの町内からお金をもらったら同じことでは？

山本講師

私も町会費払ってますから。

南部委員

それをもらうわけやな。

山本講師

それからゴミの問題ですけれども、先ほどもちょっと私申し上げなかったんですが、近鉄宇治山田駅からJR伊勢市駅までかなり距離あります。一番ゴミの多いのはですね、外宮参道なんです。観光客が通るところ。ベンチがたくさん置いてあるんですよ。必ずベンチの下に紙クズを放り込んであるんですよ。コンビニが近くにあって、要するに観光客が比較的動く場所は多いです。ただ、一般の町、住宅地は比較的少ない。せいぜいあっても吸い殻ぐらい。いっぱいになるのは人通りの多いところ。これはね何年間もやってるけど少なくなりませんね。だからね、少なくならないからといってやめちゃうかということではない訳なんですよ。みなさんの周りで犬のフン落ちてませんか？「かなわんなあ市は何しとんのや」「警察は何しとんのや」と言うバカがいます。私言うんです。「マナーを守れない人がいるなあ」「ところであなたそのフン拾った？」吹上町のパトロール隊員みんなフンも拾ってます。我々吹上町のある川沿いにフンが多かったんですけども、そこの住民がですねみんな総出でフン拾いやったんですよ。犬を散歩させる人コースを替える人もいるし、コースを替えないで、袋を持ってフンを拾っていく人も増えました。だからきれいになりました。何が言いたいかと言いますと、困るな困るなではなくて、自分たちが拾って見せる。そういうことをやるとですね、色々な意味で波紋を投げかけられる、良い波紋を投げかけられるなああと・・・それとゴミ一緒でしょうね。ただ、観光客の皆さんにどうのこうのという話はなかなか難しいですね。だから依然として残念ながら外宮参道の所はゴミは多いです。これは解決されません。よろしいでしょうか。

上野会長

ほかによろしいでしょうか、どうぞ

作本委員

私の今住んでおりますところは名張市なんですが、名張市の振興住宅で、つつじが丘というところに住んでおります。そちらの方で子ども達のスクールガード的なボランティアというのは、本当に皆さん熱心に活動していただいて、NPO法人の方とかもいらして、頑張ってくださいてるんですが、一貫して子供達も高齢者の方も地域も犯罪といいますが、地域全体のまちづくり防犯に関わっていらっしゃるといというのは、素晴らしいなと思って聞かせていただいています。部分的に役割分担で、いくつかのグループが一つだけのことでというのはよくあると思うんですが、全てのことに関わっていらっしゃって大変だと思うんです。これからも元気でお続けいただきたいと思います。ほかにも市町のこういう風なボランティアといいますが、グループの方がたくさんいらっしゃると聞きますが、そのへんの連携とか、情報交換とか定期的に会合を持たれるとかしていただいて、こういう素晴らしい色々な、マニュアル的なことも書いていただいているので、そういうことをしていただいているのでしょうか？

山本講師

結論を言いますと、やっておりません。と言いますのは、先ほど申しました様に、全部バラバラ。それではダメだということで、伊勢警察署の生活安全課の小林警部が腰を上げていただいて、横連というのを作ろうということで、この9月に発足するんです。今、ボランティアの話が出ましたけれども、吹上町ではボランティアとか奉仕活動という言葉一切使わないんですよ。自分たちの町のことやるのに何が奉仕活動だと。自分たちでやるのは当たり前の話じゃないかと、責任と義務じゃないかと、おつとめじゃないかというようなことでね。吹上の場合はですよ。吹上では私は使わせておりません。NPOの方と一時タイアップしたことがあるんですけど、いったん馬力でした。吹上の話なんですけれども、児童の送り迎えというのは吹上だけしかやっておりません。残念ながら。それをね、良い意味で裾野を広げる様にやっていきたい、というのがこの9月狙ってるんですよ。必ずうまく皆様方に胸を張って、伊勢市はうまくいったぞと、言えるようにしていきたいと思えます。

上野会長

ほかはどうですか。ございませんか。

私、一つ提案ですが。山本さんの話に関わる部分もあると思いますが、一番関わりがあるのはですね。金川室長がご説明いただいた県の来年度の取組の中に、色々と継続した形

での取組が、22年度から続いていると理解しています。それはそれとして、そろそろ安全安心なまちづくりのための「防犯の県民大学」というものを作ってはどうかと言う提案です。現在500いくつかの自主防犯団体が出来上がっているというのは、大きな行政の力もあったと理解をしていますし、それも一つの実績になっている。さらにそれを進めていけば、その県民大学で色んなカリキュラムを作って、堅いイメージの組織ではなく、一つの防犯に関する、防犯を目的とした県民大学ということになるのかなと思います。そういうことを少し考えていただけないかなと思います。

金川室長

今までは、自主防犯団体設立の必要性等に基づく活動をしてきました。県民・市民大学等についても各関係機関とご相談をさせていただきまして、検討していきたいと思っております。

上野会長

ありがとうございました。是非何らかの形で、そういうのが出来上がると全国からも注目されると思います。さらには3・11に関連した、何らかのアクセスができるような組織が出来上がると大変いいなと思っております。

山本講師

私も昨年、5年前から色々ご指導いただいて、生活・文化部のですね、リーダー養成講座、非常に良いと思うんです。ただ、内容的にさらに肉盛りをしていただきたいのですね、座学・講座と同時にですね、実務的なことを是非お願いしたいなど。是非例えば実際防犯活動の真の随まで理解しておる人は少ないと思うんですよ。それで、例えば防犯マップの作り方、組織を立ち上げるためには何を作らなあかんかとかですね。そういった実務的な作業を含んだカリキュラムを立てていただいてですねやったらどうか。4・5年前ですかね。小宮先生にお会いしましてですね、防犯マップの作り方を指導受けたんですよ。未だに覚えてます。作業を伴った養成講座これが結構おもしろいです。私ども吹上町内で隊員教育があるんですよ。これは豆知識としては、教育的な資料を作っておりまして、その教材を基にですね、隊員をスキルアップということで取り組んでることがあるんですよ。それで、色々議論しまして、先日も、青空井戸端会議というのをやったんですよ。地域で分散してですね、私が担当しておる18世帯かな。町の片隅で防犯について話を。いろいろな話を逆に聞くんですよ。それも1つの実技でするので結構おもしろいです。県の方も座学プラス実技を伴った養成講座を是非開催していただけないかな。とお願いなんですけど。

金川室長

私も昨年、リーダー養成講座で小宮先生の話をお聞かせいただき非常に有意義でした。今年も開催しますので、それについては考えていきたいと思っております。

上野会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。言い残したことは。

山本講師

何か資料ですねご入り用でしたらメールアドレスお渡ししますのでいつでも送ってください。ご遠慮なく、メール配信できますので。

上野会長

それではまた後日メールを発信していただくと言うことで。

最後に盛大な拍手をお願いします。ありがとうございました。

他に、特に何かありませんか？

赤塚委員

ありがとうございます。最後になりました。もう少し早く本当はお話をさせていただきなきゃならなかったと思うんですが、いつも各関係機関の方達が、現状に関する貴重な情報、データなどをお示ししてくださり、さらにそれに対する取組というのを説明していただきます。とても大変なことだと思いますし、私たちもよく現実を認識していく上で、とても大変役に立っております。ところがですね、ここの中で、例えば宮西委員からの貴重な、具体的な御意見というのが出されたと思うんですが、そういう具体的な御意見をどこでどうやって活かしていけばいいのか、ということを考えていくことも大切ではないかと考えるんですが、いかがでしょうか。そして会議の時間がそんなに長いわけではないので、すぐその場で解決するというのは難しいですし、すぐに意見を求められてもすぐに返答ができるわけでもないと思うんですね。そんな簡単な問題では無いと思うんですが、例えば犯罪件数がこんなにある。でも、その現状だけでなく、原因をなぜかというので宮西委員が先ほど言われた、未来のない生活という言葉は非常に重いものを持っていると思うんです。未来のない生活の中で、犯罪を減らしていくのも難しいことだと思います。こういったような言葉から考えていくためには、教育の部門からも考えることができると思いますし、経済的な方面からも対策を立てていくことが大切ではないかと思うんですね。それを聞かせていただいております、もっと下の方へ持って行きますと、そういう様な専門の部署があるのではないかと。でもなぜか、なかなかうまく対応して行かない、それは大勢のことですから大変なのはよく分かりますけど、それに外国の方であれば、第1に大きな言葉の壁もありますから。本当に自分の言いたいことをどのようにして伝えていくのか。などなど細かい問題がたくさんあると思います。それでこういったようなことを、

この2回の会議ではとても難しいことだと思いますので、何とか少しでもいいように、みんなが未来へ向けての生活ができるように、どこかで少しでも考えていけるところというのを考えたいと思います。大変な中で大変なことなんですけれども、何事も楽な状況では良い方向に向かうということは、やはり難しいと思いますので、それを感じましたので、最後に失礼をいたしました。ありがとうございました。

上野会長

ありがとうございました。一つの大きな問題提起をされたと思います。今日ここで色々議論したり、あるいはそれぞれの担当部局からご説明をいただいたことについては、議事録を作ってホームページに載せるということで、そこにアクセスしていただければ情報を共有することができるというのが1つあります。県民全体に対して漏らすことなく情報を提供するというは、どのように議論するかに関連するのだと思いますが、それ以外、今のところ方法はないと思っております。それから外国人との生活共有を考える際に、未来に対して展望の開けた道筋があるかという、これは、今後の議論だと思います。赤塚先生がおっしゃった様な、情報を共有することと関連するんだと思います。一定のフローチャートみたいな物を作ることができて、そのチャートの中で色んなことが出てくるというような仕組みを考えていければと思っております。それは先ほど私が申し上げました防犯のための県民大学であると言うような位置づけができれば、道筋が見えてくるだろうと思います。これはいかがでしょうか、何かコメントはありますか？よろしいですか？これで終了させていただきます。ありがとうございました。

司会 廣田

上野会長どうもありがとうございました。
委員の皆様ありがとうございました。本日いただきましたご意見は、事務局で整理させていただきます。一度皆様にチェックいただいた上で、ホームページの方で概要として公開させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それではこれをもちまして平成23年度第1回「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」を終了させていただきます。本日はありがとうございました。お忘れものがございませんようにご確認いただきたいと思います。本当にありがとうございました。